

はがきサイズのメッセージカードが手元にある。守山市の琵琶湖岸を色鉛筆で描いた風景画の裏面に「認知症と診断を受けたあなたへ」とメッセージが記されている。

絵と文章は、同市の認知症専門のデイサービス「もの忘れカフェ」に通うお年寄りたちが書いた。カフェの隣室では週1回、65歳未満で発症した若年性認知症の就労支援として、患者やボランティアら約20人が自

メッセージカード

動車部品の仕分けなどの内職に励んでいる。

アルツハイマー型認知症の薬を販売する製薬会社から今春、認知症と初めて診断された患者と家族向け

かいつぶり

メッセージはこう続く。「今は何も言わたくないと「言わたくし」の間に、他の文字より太い筆跡で「れ」が書き加えられている。

の資料の袋詰めを受注した。当面、1万部が目標だ。全国の医療機関を通じて配られる予定で、カードはその袋に同封されている。症状の進行への不安や憤りはあっても、精いっぱい前向きに生きたい。新たな患者へのエールだけでなく、カフェに通う人々の切実な願いを感じた。

(芦田恭彦)